

RPAを活用して3年、職員の負担軽減、年間6,000時間までの道のり（大分県別府市）

取組概要

- 平成30年にRPAの試行を開始し、令和元年5月より本格利用を開始、継続してRPA利用の拡大を図る
- 令和3年度末時点、16課、87業務でRPAを活用し、6,000時間の業務負担を縮減（縮減率78%）
- ・ RPAシナリオの作成は、主に内製で実施（内製率82%）

取組の効果

令和元年～3年の3年間の費用対効果額 **21,751,856** 円

（効果額：38,900,856、費用額：17,149,000）

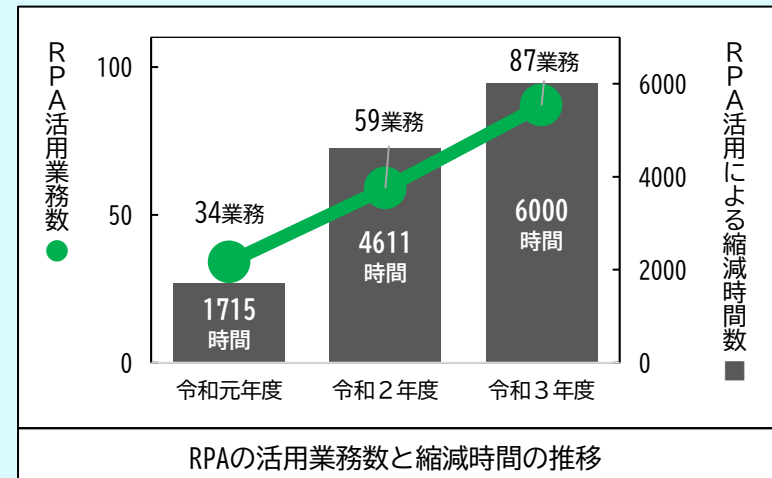
+ 定性的効果 + 心理的な効果

創意・工夫した点

- RPA導入を必ず成功させるための秘訣  
導入が進むためには、RPAを導入したい人を対象に進めることが大事
- RPAの利用を拡大するための秘訣  
RPAの動作や効果は、利用現場を見る、実物に触れることが大事
- RPAを内製で作製していくための秘訣  
担当者が異動しても持続して内製ができるようにすることが大事
- RPAの運用を持続させていくための秘訣  
人事異動により導入に関わっていない人が担当となっても持続できることが大事

人口 113,252 人（R4.1.1現在）

担当 企画戦略部 情報政策課



他団体へのアドバイス

- RPAは、業務の効率化と働き方改革のために有効なツールと考えてます
- RPAの利用を継続し拡大していくことにより、効果は必ずあがるものと思っています
- RPAのシナリオの作成も、思っているよりは容易だと思えますので、ぜひ、チャレンジしてみたいかがでしょうか